

2008年(平成20年)4月3日 (木曜日)

■「フライを落とした野手はなぜ空を見上げるのか？」
(保科充弘著)



慶大時代に準硬式野球をやり、大手銀行から独立してM&Aアドバイザーを生業とする筆者らしく、野球のプレーとビジネスをミックスした異色の1冊。人は自己保身のために言い訳を考える。野球でフライを捕り損ねると野手が空を見上げるのは、白球と太陽が重なったからだという言い訳と重なる。

そこで「言い訳で自分の立場やプライドを守っても会社を守ることはできません」とし、意味のない言い訳は無駄と、ぼっさり。大人の世界は厳しいことがあらためて分かる。
(幻冬舎ルネッサンス・1365円)